

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立秩父高等学校) n07

目指す学校像	地域の期待に応える活力ある進学校づくりと、礼節と主体性を備えた人材育成を行う。
重点目標	1 授業等を充実させ、生徒の学力を向上させる。 【授業改善】 2 高い志を育む進路指導を行い、生徒の進路を実現させる。 【進路指導】 3 積極的な情報発信を行い、地域の期待に応える進学校をつくる。 【開かれた学校づくり】 4 将来のリーダーにふさわしい礼節と主体性を備えた人材を育成する。 【礼節ある人材の育成】

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5	名
	生徒	3	名
	事務局(教職員)	6	名

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					29年度評価(2月15日現在)			学校関係者評価	
年 度 目 標					29年度評価(2月15日現在)			学校関係者評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	意 義	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	○授業及び家庭学習にしっかり取り組む生徒とともに意欲的に取り組めない生徒も混在する状況である。 全ての生徒が学習意欲を高め、主体的に学習活動に取り組めるよう、学年・教科等の連携などより一層の組織的な指導が必要である。 ○「わかった」「できた」という喜びを味わわせ、自信を育てるよう生徒主体の授業に一層取り組んでいく必要がある。 教科指導力向上のためより実効性のある研修会等についていく必要がある。	①生徒の学力を向上させる	①できる授業、生徒主体の授業を展開し、自信や学習意欲を高め、考える力や表現力を育成する。 ②朝小テストを繰り返し実施し、語彙力など基礎学力の確実な定着を図る。 ③予習・復習を前提とした授業の工夫や課題提供により継続的に主体的な家庭学習設定を行う。 ④思考力・判断力・表現力の育成を目指し、小論文指導、ビブリオバトル、読書会等を組織的に実施する。	①生徒アンケートで「授業はわかりやすく、工夫されている」とする回答が80%以上となったか。また、「授業に集中し、予習・復習を徹底的に行った」とする回答が50%以上に達したか。 ①生徒による授業評価で「授業での自己表現の頻度」の割合が70%以上に達したか。 ②家庭学習時間週20時間以上実施した生徒の割合が35%以上に達したか。 ③小論文指導やビブリオバトルを組織的・計画的に実施できたか。	①「学力(技術)の向上を実感できるか」の問いに67.2%が「できる」と回答。「授業に集中し、予習・復習を徹底的に行った」は51.1%であった。 ①自己表現については34%が「自らの考えを表現できる」と回答。 ②1年生は平日1時間以上家庭学習54.8%(前年度55.7%)、2年生は53.8%(前年度50.2%)。 ③ビブリオバトルでは1名が県大会に出場した。	B	個々の教員の授業実践について、生徒は一定の評価をしているものの授業に対する意識はやや低下傾向にある。様々な進路希望やモチベーションを有している生徒に対して、補習や課題を課すなどの方策を各教科が連携し、組織的・計画的に実施することが必要である。	・本校の先生方の授業はわかりやすい。 ・指定された本を読む「読書会」より自分の好きな本をアピールするビブリオバトルの方が楽しい。 ・大学入試の在り方が変わってくる。 ・英語は4技能への対応が急務である。 ・きちっと地元で力をつける高校としてさらに発展してもらいたい。 ・先生方は担任・教科の先生をはじめ、良く面倒を見てくれる。	
		②教員の指導力をより一層高める	①生徒による授業評価を具体的に活用し、教員の指導力向上に活かす。 ②定期的な教科会の実施と授業公開週間を設定すると共に主体的・対話的で深い学びを進めるため、校内教科研修会を実施する。 ③教員の自作教材や指導法をデータベース化し、教育財産を共有できる環境を整え、外部教育機関と連携し教育データ研修会を実施する。	①「積極的に意欲を持って取り組める」との回答が80%以上に達したか。 ①「学力(技術)の向上が実感できる授業である」との回答が80%以上に達したか。 ②教科会3回・教科別研修会2回以上、授業公開を3回以上及び職員研修会を2回以上実施したか。 ③教育データ活用研修会を2回以上実施したか。	①「授業開始前準備ができていない」は72%ができていないと回答。一方で「意欲的に取り組んでいる」は48%であった。 ①「学力(技術)の向上を実感できる」の回答では67.2%であった。【再掲】 ②教科別研修会の一部をアクティブラーニング研修会として有意義な研修を実施できた。 ③教育データ活用職員研修会を2回実施した。	B	外部講師を招いてのアクティブラーニングに関する研修で、今後の高大接続、新学習指導要領への対応の一手となった。教科別研修会でさらに各教科での対応を検討できた。アクティブラーニングについては、今後さらなる工夫・改善につなげていく。		
2	○高い目標を持って学習活動に取り組む上で、個別面談は大変効果的である。今後もある限り多くの面談を実施する必要がある。 様々な体験活動に参加することは生徒にとって大きな刺激となる。今年度も様々な活動への参加を促す必要がある ○補習等のより効果的なあり方について、生徒や保護者のニーズや課題を分析し、新たな体制を含めて検討する必要がある。	①高い志を育成する	①進路ガイダンス、進路講演会及びキャリア教育講演会などを組織的に実施し、保護者の参加も促す。 ②個別面談、三者面談を繰り返し実施し、生徒に諦めさせない指導を実施する。 ③オーストラリア語学研修や姉妹校来校などの国際交流事業や学校間ネットワーク会議を活用し様々な体験を実施する。	①生徒アンケートで「高い目標を持ち、妥協しない自分づくりに努めた」、「進路説明会・面談等進路についてのガイダンスやアドバイスを適切に行われている」の回答が前年度より上昇したか。 ②個人面談を全クラスで少なくとも4回以上実施したか。 ③オーストラリア語学研修参加者の国際交流体験の評価が高かったか。	①「高い目標を持ち、妥協しない自分づくりに努めた」は、64.7%で0.2ポイント増、「進路説明会・面談等進路についてのガイダンスやアドバイスが適切に行われている」は、79.1%で7.2ポイント減 ②各クラスが概ね4回以上の個人面談を実施できた。 ③参加したほとんどの生徒が「大変満足」との回答であった。さらに、参加した生徒が今年度初めて文化祭において研修報告会を実施し、活動成果の周知に努めた。	A	学習に対する意識づけについては、面談等を実施する中で、きめ細かく指導している。また、進路に関するアドバイス体制は、高い水準を保持しており、次年度以降も面談や家庭との連携、効果的な講演会の実施が継続して必要である。	・少子化が加速することで大学には入りやすくなる傾向が続く。その一方で公務員、看護師、警察官それぞれ高い志を持って社会、特に秩父の発展に貢献する人材を育ててほしい。 ・サマースクールや土曜日の補習より、自分で勉強した方が能力が良い生徒もいる。生徒の多様性にも対応すべきかもしれない。 ・CSIはビデオ学習なのでやはり先生に質問できる方がよい。	
		②実力養成を行い生徒の第一希望の進路を実現する	①組織的にCSや土曜講座、補習を展開する。 ②成績上位層の体系的指導を実施する。 ③1学年の希望者にスタディサプリを用いた学習を導入し、学習習慣や基礎力の定着を図る。 ④スタディサポート検討会の開催や、模試結果分析を共有し、生徒の実力向上に活かす。 ⑤志望校検討会を組織的に実施し、より高い目標での受験につなげる。	①CS講座、土曜講座、補習等への参加者の満足度が上昇したか。 ②③特進クラスで外部模試偏差値50以上の生徒数の割合が1・2年ともに80%以上を達成したか。 ③学習習慣の定着が進んだか。 ④国公立大現役合格20名以上を達成したか。	①CS講座、土曜講座については、生徒の参加状況や意欲が低下傾向にある。 ②③1年は90%、2年78%であった。 ③1年生は平日1時間以上家庭学習54.8%(前年度55.7%)、2年生は53.8%(前年度50.2%)。【再掲】 ④20数名が受験中。すでに東北大学、都留文科大学にそれぞれ1名合格した。	B	CS講座、土曜特別講座ともに受講者が減少している。出席率も低下しており、ニーズや課題点を分析し新たな体制も含めて、学力向上検討委員会で検討中である。		
3	○今年度の入学生は定員を満たすことができなかったことを真摯に受け止め、中学生や保護者のニーズを的確に把握し、より魅力のある学校にする必要がある。 ○学校行事や部活動主催の活動など様々な事業を通して本校への評価や年々高まっており、来校者も概ね増えている。今年度もさらに地域に開かれた学校づくりを進める必要がある。	①入学志願者倍率を確保する	①在校生の言葉で伝えるなど、効果的に情報発信するとともに、地域行事への積極的参加や部活動等を通じて、本校の魅力とは何かを具体的に中学生や保護者に伝える。 ②学校説明会や個別相談会の実施、中学校訪問や学習塾訪問を組織的に行う。	①中学生への定期的な情報提供、HPの更新等、有効な広報活動を展開したか。地域行事に積極的に参加したか。 ②中学校訪問や学習塾訪問を組織的に5回行ったか。また、訪問先を新規開拓できたか。 ①②入学志願者倍率1.05倍を達成したか。	①生徒募集リーフレット等を対象中学校に配布、HPの適宜更新を行った。吹奏楽部、音楽部、箏曲部が地域のイベントに積極的に参加した。 ②深谷・寄居、入間・飯能方面を新規開拓した。また、今年度、塾対象説明会を1回実施した。 ①②12月時点で0.98倍。	B	県北部の中学生人口が急激に減少していく中で、本校の魅力をさらにPRして、秩父地域からの受検者数や、県西部地区からの受検者数を増やす必要がある。	・学習塾が離開な高校を勧める傾向にある。秩父高校の進学実績なども良い。学習塾にも積極的にPRし、こうした実績を知らせた方がよい。 ・HPをもっと積極的に活用してほしい。 ・少子化が進む中で今後の秩父高校のあり方について検討し何をすべきかを整理する必要があるのではないかと。 ・昨年よりも秩父地域以外からの進学者が減っている。これからは秩父地域以外にも積極的なPRが必要である。 ・地域とのかかわりがまだ少ないような気がする。地域の方々ともっと交流した方がよい。	
		②本校への来校者を増加させる	①生徒会など在校生の活用やPTAの協力、バスツアーの実施などで学校説明会や個別相談会への参加者を増やす。 ②PTA、後援会、同窓会との連携を強めて学校行事等を推進する。 ③チャレンジスクールや中学校の高級学校訪問など小中高連携事業に組織的に取り組む。	①秩父地域及び飯能、寄居方面からの参加者が30組以上に達したか。 ②文化祭等への来校者が昨年度より増加したか。 ③小中高連携事業での来校者が昨年度より増加したか。	①バスツアーは実施しなかったが、積極的に中学校、塾訪問の開拓により飯能入間方面から21組深谷寄居方面から27組計48組が来校した。 ②本年度の来場者数は約1250名(昨年度並) ③チャレンジスクールは台風の為一日開催。上級学校訪問も例年並みの実施。花小2年生の見学の受け入れ。陸上部による花小生への指導は日程の都合で次年度へ持ち越し。	B	近隣の小学校、中学校と授業公開や出前授業、各行事での生徒の活用など年間を通じて、今後も交流を進めていく。		
4	○挨拶や身だしなみなど地域からの評判も上がっている。部活動や学校行事への取り組みなど、さらなる主体性の向上が必要である。	①生徒の礼節と自主性を育む	①「生徒努力項目」を励行し、教職員・生徒・家庭が連携し、特に整容指導については徹底を図る。 ②特別活動(部活動・学校行事等)を通して生徒の自主性を一層育む。 ③諸活動を通して自校に誇りを持たせる。 ④支援委員会のもとカウンセリング研修等を通じて、教育相談を充実させ生徒理解を深める。	①「規律ある学校生活」の項目が90%以上に達したか。 ②特別活動の自己評価が85%以上に達したか。 ②生徒の満足度が85%以上に達したか。 ②③生徒会を中心に広報活動に関する諸行事に積極的に参加した生徒数が昨年度より増加したか。 ④支援委員会を年3回実施したか。 ④「先生方による相談対応」で生徒評価が昨年度より上昇したか。	①秩父高校生としての自覚と責任は95%以上の生徒が感じている。 ②積極的に参加していると回答した生徒は93%であった。②生徒満足度・70.9%が肯定的(昨年度82.2%) ③学校説明会や交通事故防止運動、市長との懇談など積極的に参加した。 ④支援委員会は3回開催した。	A	挨拶の励行や身だしなみなどは改善してきているので、継続して指導していく。様々な配慮を要する生徒が増える傾向にあり、次年度もスクールカウンセラー等の活用を進めていく必要性が高まった。生徒の満足度の低下を検証し次年度に生かす。	・朝、登校中の生徒がよく挨拶をしてくれる。自然な感じで良い。 ・スマホ依存やネットトラブルにならないよう学校でも十分注意してほしい。 ・いじめへの対応や教育相談についてはチャネルがいくつもあると良い。早期発見早期対応が必要だ。	

